

# 鎌倉日和

vol.34



暑中お見舞い申し上げます。

新型コロナウイルスにより事業に影響を受けている皆様に心よりお見舞い申し上げます。私たちが日々事業を行えるのは皆様に支えられてのことと心より感謝いたします。例年であれば講演が始まる時期ですが、今年はコロナの影響によりオンラインでの実施となるなど、仕事のやり方が大きく変わっています。手探りで戸惑うところもありますが、私たちは特許や商標登録など新しい物や事を取り扱う仕事ですから、成功も失敗も含め様々な変化に果敢に取り組んでいきます。そして、その取り組みで得られたビジネスのチャンスやヒントを皆様にお伝えできればと思っています。コロナに負けず暑い夏を過ごしたいものです。 所長弁理士 渡部 仁

## 鎌倉ブランドのお客様・その①

### DOPE AND DRAKKAR® 様

#### ● 3姉弟で手掛けるアパレル会社 ●



稲村ヶ崎駅から徒歩 13 分の住宅街にある DOPE AND DRAKKAR 様。白を基調にブルーがアクセントの建物で、高台にありながら海を感じられる素敵なお店です。居心地がよくて、つつい長居してしまうお客様が多いというも頷けます。

長女、次女、長男の3姉弟で運営している同ブランド。今回、長女で代表の中村美穂さんにお話を伺いました。

#### ● ブランド名にこめられた想い ●

「DOPE AND DRAKKAR」は 25 年続くブランドで、以前は渋谷区神宮前にお店を構えていましたが、移転を考えて迷っていた時に長男の「鎌倉に帰ろうか」という一言で、生まれ育った鎌倉の地に移転を決めました。



「DOPE AND DRAKKAR」というブランド名には、「商品の虜（ファン）になってほしい」という想いがあり、もともとこだわりのジーンズ作りからスタート



し、着心地の良い、遊び心のあるオトナ向けのカジュアルウェアを展開してきました。

鎌倉の地に移転してからは、基本は変わらず、私たちが日常から

感じる鎌倉の空気感をイメージした商品作りになってきています。「人の手のぬくもりを感じられるような商品作りをする」という想いは 25 年間続いています。

その想いから、工場で完成した商品に、ワンポイントの刺しゅうをほどこすなど最後の仕上げをしています。「自分たちでデザインからアフターサービスまで行うことで、お客様の声をダイレクトに聞くことができ、それをモノづくりにいかせるというのは、最大の強みであり理想的な運営ができていると実感しています。」

#### ● 鎌倉ブランドとして ●

東京のころから展開していた、鉱石・草木・果実で染める「Fab Garden」のシリーズに鎌倉らしさを加えたいという考えから、鎌倉を象徴する花でもある紫陽花染めが始まりました。



この紫陽花は、3姉弟が幼少期をすごした地域にある葛原岡神社に咲いているもので、地元のボランティアの方々によって守られ、毎年美しく咲いています。見頃を過ぎたころに染色に必要な分を分けていただいているそう。「地元の人々のつながりや、ご縁で今の自分たちがあるということに感謝しています。」と笑顔で語ってくれました。

「鎌倉に戻ってきて驚いたことは、『みんなで良くなる』という雰囲気があること。昨今の大変な状況下でも、近隣で商売を営んでいる方や住民の方々が声を掛けてくださるので、頑張ろうと思えました。これが鎌倉の土地の力なのだと思います。」

商標の観点でいうと「DOPE AND DRAKKAR」は覚えにくく、せっかくテレビやラジオで取り上げられても、認知されにくいのが課題だそう。「今後は、『鎌倉の紫陽花染めと言えば…』とすぐに皆さんの頭に浮かんでくるぐらい覚えやすく、消費者の方が他の商品ときちんと見分けられるような消費者目線での商標登録、ブランディングを検討していきたいですね。」

#### DOPE AND DRAKKAR®

鎌倉市稲村ガ崎 5-36-5  
TEL:0467-81-4702  
定休日:水曜日・木曜日  
<http://dopexdrakkar.com/>



## 鎌倉ブランドのお客様・その②

### 佐助カフェ®様

#### ● 金融ビジネスマンからカフェオーナーへ ●

鎌倉駅から徒歩15分、銭洗弁財天のそばにある佐助カフェ様。天井が高く明るい光がたっぷり差し込む店内と、心地良い風が抜けるテラス席は、ご近所の常連さんや散策途中に休憩で立ち寄ったお客様でにぎわっています。

オーナーの島崎亮平さんは金融業界の最前線で世界中を駆け回っていたという

経歴の持ち主。

都心での忙しい日々疑問を感じていた時期に、鎌倉のハイキングコースを歩いていたら、たまたま「売地」の看板

を見つけ、すぐに移住を決めたそうです。その後、学生時代からの「カフェを開く」という夢にむけ準備をし、2019年10月にカフェをオープンしました。

#### ● 地元アーティストの発信の場として ●

こだわりのコーヒーはもちろんのこと、もち粉100%を使用したもちもち食感の「佐助焼き」など、充実したカフェメニューがそろっています。「佐助焼き」は、どら焼きが大好物の島崎さんが試行錯誤して作り上げた自慢の一品です。

でも、こちらの一番のウリは、「カフェ全体がギャラリー」であること。鎌倉や湘南のアーティストを中心に、さまざまなアートの企画展を定期的に開催しています。取材に伺った期間は、近隣にお住まいのモンゴル出身の芸術家ご夫婦の作品展を開催していました。



どのように企画展の計画をしているか伺ったところ、「自然とつながりができて、お客様が紹介して下さったり、近隣に住む芸術家の方の紹介からまた紹介されたり・・・」といったかたちで、自然

と企画ができてしまうそう。

「ギャラリーのようなかしまった空間ではなく、コーヒーを飲みつつ談笑しながら、ゆっくりとアートに触れてもらいたい。カフェはその箱に過ぎないんです」と謙虚な語り口の中にも熱い想いが感じられる島崎さん。その想いが、人を呼び、つながりをつくっています。

鎌倉、湘南には若いアーティストから巨匠とよばれるような人までたくさんの芸術家が住んでいます。彼らにとっても、気軽に地元から発信できる場があることは嬉しいのではないのでしょうか。

#### ● 佐助の名に恥じない店でありたい ●

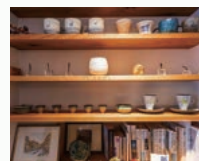
都心から鎌倉に移住して、緑美しく風が心地よい佐助の地にすっかり魅了された島崎さん。だからこそ、「佐助」という地名の入った名前で商標登録をして、類似の名前が使われないように守りを固めようと考えたそうです。



でも、何よりも大切に考えていることは「地元の方々に愛されるカフェにしたい」ということ。佐助には、この地に誇りをもっている住民の方々がたくさんいます。「佐助という地名をつけたからには、それに恥じないよう、地域にしっかり根付いた事業を行っていきたいと考えています。」

#### 佐助カフェ®

鎌倉市佐助 2-18-15  
TEL: 0467-55-5226  
定休日: 不定休  
<https://sasuke-cafe.com/>



地名と商標

商標登録には、多くの判断基準があり、そのうちの一つに「地名と商品・サービス名が合わさっただけの商標は原則登録の対象とならない」というものがあります。「横浜まんじゅう」「江ノ島ベーカリー」や「鎌倉カフェ」などは登録を受けられないということです。

一方で「御成蕎麦」「鎌倉山納豆」や「佐助カフェ」は商標登録の対象となっています。

この違いは「需要者が地名と認識するかどうか」が

判断の基準になっており、必ずしも行政区画の大小によるものではありません。しかし「需要者が地名と認識する」とはいつでも、現実の鎌倉の観光客を想定すると、その認識は千差万別です。御成が良いなら由比ヶ浜はどうか大船はどうか…

商標の審査においても、その線引きは簡単ではありません。皆様の大切なブランドを守るため商標登録にお悩みのときは、一度専門家ににご相談いただければ幸いです。

商標担当弁理士 芦田 圭司

SHOUSEI International Patent Office

将星国際特許事務所

〒248-0006

神奈川県鎌倉市小町2-11-14 山中MRビル3F

TEL: 0467-73-8540 (平日10:00~16:00)

FAX: 0467-73-8541

Email: [info@shousei.jp](mailto:info@shousei.jp)

URL: <https://shousei.jp/>

